

はじめに

産学官推進体制の構築

IT活用課題解決型人材の育成と実証活動支援の展開

研究会

IT活用人材育成

実証活動支援

地域再生計画 と R3年度事業 の概要

地方創生推進交付金事業の根拠

地域再生
計画

期間：R1-3

目指す
地方創生の姿

事業の概要

- ・業務の効率化・省力化の取組やIT活用の促進を通じて、[地場産業が高度化](#)し、[競争力が強化](#)されている
- ・地場産業のIT化・デジタル化を推進する中で、[地域IT産業が集積](#)し、[若年層等の雇用の場が確保](#)されている

- 1 地域課題解決に向けた産学官推進体制の構築
- 2 IT活用課題解決型人材の育成と実証活動支援の展開

1

検討・助言・検証

■産学官地域課題研究会の開催

- ・人材育成プログラムの立案
- ・事業者が抱える課題の抽出・整理
→実証活動支援方針の立案
- ・上記取組の実効性向上（検討、助言、検証）

■参加者：16者 ●…………… KPI比：107%
(16/15者)

- ・座長：①明治大学サービス創新研究所 阪井所長
- ・構成員 ②大船渡市、③商工会議所、④橋爪商事、⑤岩手開発産業、
⑥アローリンクス、⑦富士ソフト、⑧キャッセン、⑨アマタケ、
⑩酔仙酒造、⑪Novalumo、⑫東北銀行、⑬信用保証協会、
⑭サンリア、⑮青年会議所、⑯市民活動支援センター

※■R3新規参加者（8者）

R3
事業

23,941千円

受託者：地活研

2

■IT活用人材の育成

- ・主に「15～64歳のIT活用初心者」向けに、「ITスキルを自ら学べるようになる講座」と「受講者同士で学び合う場」を実施

■受講者実人数：50人 ●…………… KPI比：333%
(50/15人)

■創出プロジェクト数：4件 ●……………

■受講者の評価：9～10点/10点=68%

- ・親子（小中学生）向けに、人気ゲームの教育版を活用したプログラミング教室を実施

■受講者実人数：16人（うち、小学生7、中学生0）

■受講者の評価：9～10点/10点=71%

■実証活動の支援

- ・事業者自らによる「事業の利害関係者との接点をIT活用により可視化する実証活動」を支援

■創出プロジェクト数：5件 ●…………… KPI比：180%
(9/5件)

■創出プロジェクトの継続率：100%

はじめに

産学官推進体制の構築

IT活用課題解決型人材の育成と実証活動支援の展開

研究会

IT活用人材育成

実証活動支援

IT活用人材育成プログラムの立案・実施

1. IT活用人材のイメージ

H27市人口ビジョン「若者が住み続けたいまち」

学びたいことが学べて
働きたい仕事ができる まち



能動的に行動する人材を育成することの必要性
を考慮し、R3研究会で再定義

自ら学べる・仕事をつくれる人材
が育つ まち

2. 基礎的事項の設定

①対象者

・IT活用を始めようとする生産年齢層
(15～64歳)

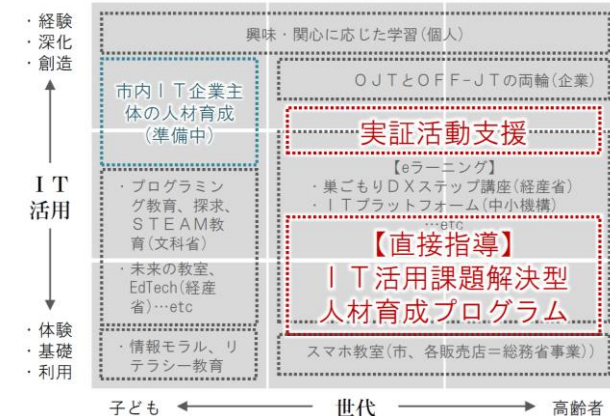
②実施形式

・オンラインを基本、一部対面

③実施テーマ

・教えようとするのではなく、受講者に
トランスフォームの入口となる
「行動意欲に繋がる感覚」を感じて
もらいつつ、受講者をサポートする

3. 他のIT活用系講座との差別化



4. 実績

区分		講座等	実人数	延人数
ITスキルを学べるようになる講座 (IT活用塾)	①暮らしを便利にする学び	Googleアプリ活用講座(全4回)	32人	76人
		LINE公式アカウント活用講座(全4回)	26人	63人
		動画作成・活用講座(全4回)	18人	33人
	②仕事に役立つ学び	スケジュール管理・共有講座(全3回)	5人	11人
		ITツール社内導入ポイント講座(全4回)	6人	12人
	③学べようになる入口	IT検索力・情報活用力講座(全3回)	4人	9人
		受講者が作成したIT活用策の成果発表会(全1回)	7人	7人●
学び合う場	もくもく会(全18回)		14人	39人
合計(41回)			50人	250人

【成果発表会】



創出プロジェクト数：4件

- ・スマホによる注文受付サービス×1
- ・業務管理のクラウド化×1
- ・プロジェクションマッピング×2

はじめに

産学官推進体制の構築

IT活用課題解決型人材の育成と実証活動支援の展開

研究会

IT活用人材育成

実証活動支援

IT活用人材育成プログラムの効果検証

	10～9点	8～7点	6～5点	4～3点	2～1点	
	そう思う	少しそう思う	どちらでもない	少し違う	違う	無回答
【参加印象】 Q. 参加して良かったと感じたか？	68.3%	22.2%	7.9%	0.0%	0.0%	1.6%
【活用意欲】 Q. 活用したいと感じたか？	47.6%	33.3%	11.1%	8.0%	0.0%	0.0%

受講者
アンケート
結果

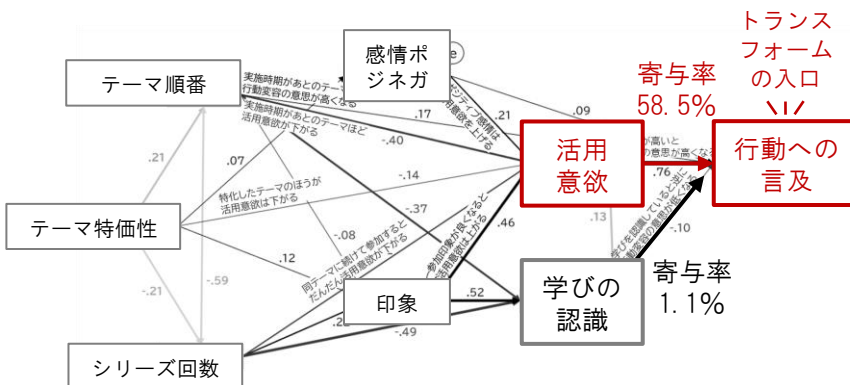
回答者：63人

明治大学サービス創新研究所による検証

研究会による改善点の整理

アンケート結果等を基に、トランスフォームの入り口
(行動への言及)に至る要因と因果関係を整理

検証結果から、IT活用人材へのトランス
フォームを促すためには・・・



今後に向け
ての改善点

①講座テーマを、講座主催者が受講者
に対し、一方的に設定することは効
果的ではない

②「活用意欲」を高める工夫が最重要

③②の工夫として、受講者自らが「思
わず活用したくなるテーマ」を決め
て実践的グループワークをする等、
学習形態を変更を試みる必要がある

はじめに

産学官推進体制の構築

IT活用課題解決型人材の育成と実証活動支援の展開

研究会

IT活用人材育成

実証活動支援

明治大学サービス創新研究所による検証の補足

各要因の解説

要因	解説
行動への言及	「行動変容(又はその意思)が生じたこと」を示す
活用意欲	「得た知識等を活用する意欲の大小」を示す
学びの認識	「目的の達成に繋がる学びがあったこと」を示す
感情ポジネガ	「感情の発露があったこと」を示す

要因	解説
参加印象	「受講した印象の良し悪し」を示す
テーマ順番	他テーマと比較し「実施時期が早いかな否か」を示す
テーマ特化性	他テーマと比較し「特定したテーマかな否か」を示す
シリーズ回数	「同じテーマでの実施回数の多寡」を示す

「受講者の行動変容」に着目した各要因の因果関係整理

パス	寄与率	気づき
・活用意欲 →行動への言及	58.5%	・「知識やスキルを教えればIT活用人材に変容する」のではない
・参加印象 →活用意欲 →行動への言及	12.2%	・IT活用意欲は参加印象が良くなると向上する
・テーマ順番 →活用意欲 →行動への言及	12.2%	・「基礎から段階的に学べればIT活用人材に変容する」のではない
・シリーズ回数 →活用意欲 →行動への言及	2.7%	・同じテーマの学びを継続すると退屈し、挑戦させすぎると不安になる
・感情ポジネガ →活用意欲 →行動への言及	2.6%	・「個人で学習すればIT活用人材に変容する」のではない
・テーマ特化性 →活用意欲 →行動への言及	1.1%	・「先端的なテーマの学びを細切れに設定すれば、どれかは受講者に響く」のではない
・学びの認識 →行動への言及	1.1%	○：目的に沿って振り返る＝重要 ×：学んだことを振り返る＝無駄

今後、試みる必要があること

次のことを通じて、受講者個々の「IT活用人材への変容の兆し」を誘発させる

- ①受講者が「思わずITを活用したくなる」学習テーマを、初期段階で設定する
・例：受講者自らが学習テーマを設定する等
- ②受講者同士が創意工夫し、刺激し合いながら学ぶことができる、心理的安全性に配慮した学び合いの場をつくる
・例：実践的なグループワーク等
- ③「受講者自らで、自身の変容を考え、気づくことの重要性」に留意する